13
3268

へ13
3268
特

昭和十一年
四月二十七日
購求

新潟
山城町

白波序

貧ハ遥ニ憂ヲ寄ス默ス閑バ
何ト無ク吹ク風ヲ氣ニ掛テ
獨歩行ク虎蓬ヲ三十一
文字の中より見そめし七文字
とめ来とそ賊者ハ名ヲ立田山

夜半あるし藏
ヶ獄ヲ切り曉起
ヶ人ヲ追掘もちも何故で
舌三寸小味知て命絶その口
業さりとゝ法雲底世でも駝
動震て貫て先自ゆかて
人々恒風産まれいるも欲ル但
とゞ捌もそし打ちいまつも拾宮
又新しも耳ふれ穢成言計
書集ちよも巻が立ヲなる粹の
服ちいゝりくもつと懷ヶ善に
もそこ家ヲれふかなひもは
もちゝ悪し懲ん仲尼

の筆をも不似がゝ亂臣賊子者
性惡千鶴丽さんと蒙ヲ燒
のこ

都乃錦

沖津白波一日録

近江代大津宿ぐらす
大矢内武信所ゆうす

高人乃一言

保浦おとし宗を移るす
須賀たゞうして迹をす

大江山さうづき

酒顚童子を生捕る
但天王山入まる

箱根山義右

小山之助武蔵坊ゟ
出羽中小屋育る

近江ノ大さゝ原ゟ
白面不知庵ゟ
ちゝ
頓の義
とゝ
つ
義
ゝ
義
義
義
沈の入口流
国
義

嵯峨恩とゆへぶかいの
こゝろをこそけたれけれ
中流史記一部
はんでとゝまるこゝろ
大きゝやとゝまて
ものくるなりさこゝろ
こゝひ。逝関ふかけ
京ものがりつるこゝろ
ちよんのこゝぬちふかこゝろ
淀川乃けこゝろふかのそれ

門ふかこゝろ
和泉物すこゝろ
ふかく実至帝り。
打ち風ふかく
仏のこゝろ
こゝこゝ見学
天乃こゝ
まこゝ
絶世の
どこゝ

女の限りつまり
長屋とすび入き
大きゝ
蘭の
中ふ
ぶ
ぶ
ぶ

あれはかの
三人とーさい

ちさう。見べきうしゐぬるものぞとてのく〳〵ゐまるとゐ俣合
ゐ〳〵んとさとまどゐ。れかあそうしかりそれべいきゐ風ゐ神ある
ゐ〳〵とそ寿そ山ふせよとて高へかつう。秋的て保国れ
三三人ゐそうれ〳〵不高人乃祈とゐく。皆あゐよいうう
ゐぬうゐ〳〵ひゐうふ。れ鳴がうるゐ多はゐそでおれどく
女う俗とゐ集あてゐまるれ小袖とう出〳〵。夢んづ寝つ
ゐうべうりゐれ別のゐ。ゐのうゐ〳〵とゐくゐとゐ風して戻
ゐ。ゐのれかゐくゐ方ゐ〳〵らくゐてゐんとゐゐにゐ。ゐ
ようれゐそう〳〵さまゐ。ゐうれゐゐべゐうゐ〳〵ゐくゐ
ゐれゐの乃ゐよりてゐ〳〵ゐくゐとれゐよゐでゐれく

が接続神ふ引きれくゐかゐあゐ乃ゐるゐ〳〵んとそゐ又行向て
ゐうるふひ交ハいよくゐあゐ家が身てゐ〳〵ゐ〳〵ゐ稲よ
ゐうまゐ見ゐ生ゐうと後ゐ接と清〳〵ゐ〳〵んゐ〳〵ゐる時
同れ乃中ゐくふ泳ゐとゐいよゐのゐゐるゐ。ゐくまでゐび
く見ゐとゐび行の乃ゐるゐかゐ〳〵んゐるゐ。ゐうゐとゐ麦
ゐゐ井決ゐ身ゐう。ゐまゐべゐ。ゐでゐめゐ〳〵ゐ。ゐる人のゐゐう
ゐ門に入ゐゐんゐゐゐとゐいゐ丈ゐ乃ゐ空てゐまゐいゐゐりゐやゐむ
ゐ〳〵ゐ見ゐう〳〵命ゐ三ゐつゐあゐゐゐ〳〵〳〵入ゐゐまゐゐと岸
ゐのゐう〳〵ゐれゐ。ゐ乃ゐゐ〳〵ゐ。ゐ〳〵ゐ入ゐぬゐ。ゐまを
ゐどゐとゐそゐ〳〵ゐ。ゐ泳ゐ塔ゐまゐべゐ。ゐゐゐ〳〵ゐ。ゐこゐうて

ところぶつのだらしゝすると武田四郎ふとりゆへと抛げ。四郎涙を流
よりけるを。面をあらゝくそぶれのかゆへとをきてり。
まことに面目なかりたるぶつんどもあるくあり。
始るふるのそぶれ乃四郎くゆへと凡者共也。もるゝ。
その矢ありて方よ立やうふあるいつそりまゝ、
可哀あれば。涙り出んとをるゆをれうろうゆへ
まるゝらしゝく。弦の下りたるゝと汗と流
しゝやうゝふ迎おを。たびに溜息つきてくおをに
きれようのあるるといひつをてうぬきてその武
かうゝふ大夫殿ら知りるるありそれとをづして

入りあまこびれれあるゝじいゝくをてす。大夫殿ふ
むりひく伺のがり給くるぞとをふとを弱まつでま
つるゝくしゝ伺ふあるゝ月りはふるゝりといつぶりるじ
ようこびようくこをとをてやゝて面と出ゝ。ぶんをたゝびふを
るで見おゝ。一つあまことわゝるゝそゝるくさゝあ
きば。大夫殿面を語をもちゝゝ。ぶ滿よういうる人乃
伺給ゝるとをゝ。何ゝゝ。おゝろゝをるゆゝきをゝぶゝ
ゝゝゝどゝ。大夫殿武信ぶゝゝのがりくあをゝるゝいよ
よ。大夫殿きれゝゝて目なを一乃ゝれゝあゝをゝられゝゝ
ゝ人をのゝゝゝど射殺されんとをゆをるふおとあゝ

ぞうのくるまん指して、信濃なる海とかるべし乃
ようにうちうけそーつ出るるがうつぶーか俗そーりう。
なるべし。奥とき海ーこれらふかくといひそれども海
ふときびを通ていよりうそもあるとも大きの温泉数
かさなりて塩ふきらくられ那波ふかこのつれるとまりぞれば
えんとの八安よりあて意とうとそれどぶんへ考えよ居て安さが
ぐくそんゆよりかすーどそのうんを死とるぶーーそうを
世中乃人

保補おとーーかくとうらるる

おくりやいりでう家乃ゆるざーんこのいばうり丸命とあるへば

しとのある和泉武郡ぐ文毋後当保留ぐ第に若狭府村
保補とりよりのあるり。湯人の沈もるて姉小路乃南
うる金のあの位をりぞのの奥の義と作りうの地とうう
井乃やーーありてぞに風とうとたとうくの商人とよ
び入まくくぶぐくとのの便とれうべさ経ふもいまりの人
とて行る義乃門ぶ川のの乃りうう宮ぶうて上とり
石を投入うちあるーーけうぞうふうくくび保補ぐ多ふ和
おくくいくくるのくうゆくるるーぞるるとあ宮ぶと
あやーーうりりぞうう時絡商人ぶ多の門ふいくりて見
絡めを海ーうぶいて保補まうびぶ絡のぞくくくび

迎をあつかまつりこれ出さんせ業伝ふるぞ〜正行〜くらと代
和文藻をべさうぐ〜ふ見〜耳より行くとの義にさるるひて
ゆく何縁賣ものやしくかりひそまで世るぞ色めぐり
高廣くかさまるは義乃四よ入て僕と結し
ま抑ふ和ぐどい振こまてはよ油ひ〜んとも〜と対
高義に入ることのまうの京くとんん有されべそとと
ひ保捕先生て見にくいこと商人ねとりや
いいと毎れ脇に力を入ぐ伝のよとるく保捕とう定実
義〜よとうとぐとくと僕よあるびませあ
の世まてをたいこくとまたかさらばとつくうてぬ

古歌ハいとく歌人必自歌甚心歌ニ天心ヲ存
歌ひんを歌ニ偽りだまるまり。人をもそりだまるを思
へどもこゝろづくし我ごんをとりまとと
たまのせばをつらん天をだまるまり。ゆや天理のそるまり
わるまるれどいつもそりだまるべうしべそこ人と偽りだまも
ともうごんをいくもちごんやたりかそるべ一天乃貴人
心一ふをまきば天地とぐく名知る。吉西若長乾坤必
有私と八郎康節乃金言ありとぞ
酒顛童子の出生乃事
酒ふ伝の酒顛童子ハ丹波国大江山ハ行ひ人民食歌と

食ともに通力自在ありしく絵ハ空飛のごとくなりせ
ばの人。是一盲亦ニ目ハ目とりのなやまりそ彼ハ出生を
就ハ出生井の元ハ京ハ丹波ハ国ハ桂ハ郡ハ大江山ハ住ハ
胎ハ名ハ酒ハ顛ハ童ハ子ハ丸ハ。母ハ丹ハ波ハ国ハ桂ハ郡ハ
ハ大江山ハ住ハ。母ハ丹ハ波ハ国ハ桂ハ郡

今八中くらてゐぐこのろ邦めとん迎ーみくく
生ぐ立ぐとぐぐ海ゆる新の首小縄とゆんもこれぐし。
いまぐ来くもめんもしきまぬ口いるる野山くよ遠放
うーしすべーくて。のる歌もてうふみ。合文六人寄
合。あの言ゐとう立涼山ほれゆき業立てゐうか
ぐう。故立とちぐめ回んのりのぎぐりて新ゆふを海じ
きつを拡の家乃新合ゆんの石伎南を阿海遍。係
くくとにずきこ風るくくく高りゆりぎぐゆはは
弧拡の言ゐう。赤れ実とうくひ言みを飯で月とうれど
よ。故人をるふをるぐひ立ひを六人結ゆうくか飯まで

つくく。魚八山ふ引新新ゆくく海乃に出て住来とを海ケ。
旅人乃。今拡衣拡とうぐひをるのそびくゆきば。
言ふゆるぐとゐるや海乃よりかゆふものすぐば山ゆ墨
神ぐ住で人とうくうくくくくくくくく人言と
ゆるつくゆそれそう。顔とて集るくひかの言ゐを大
ゆるくてぎ海ぐくりゆぐきりのどゆまひちぐろに海ゆて
ぐひ海乃ものこをしめあゆ。ゆるに言ゐを住乃ちれぬ
大とゆる。楽天事の白うんどを縄ゆ有べき拡乃美音一方ふ
拡ぐゆと住ゆくひ辞。辞めきば顔を同級ーてかと
うーるひ。おぐゆひのやゆふるゆり見ふゆて海顔言ゐ

と名づけ、その内に丹波の国大江山の住人酒呑童子と申す者、
仲間一味の男女、あるいは、帝より勅を賜わり、
摂津の国の源の頼光、四天王と申す人々、山伏の姿に立ち交じり、
まっしぐらに作り、まっすぐに参り、住吉の社に入り、
あたりを見まわすに、七八人、荒々しき
ありさまの者、酒盛りをなし、
すっぱだかになり、髪を振り乱し、
の間より、猛眼を光らし、面の色、紅のごとく、大酒に酔い、
なれたる荒々しき、やうやうにして、
拍子を打ち、謡を謡ひ、
人々かたりてうたう。古人の山伏こどもを語りし、
[illegible]

[illegible]年、[illegible]
一面の薄[illegible]、[illegible]
[illegible]、[illegible]
きっと保昌を突て見れば、都方の山伏、すっぱ伯耆の大山たち
めっきりつぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]
一日は鉞を突き[illegible]
[illegible]
[illegible]

合点まいらせぬるうへ。仙之助殿
いひそれ。保昌卿て。まづ問ひさるゝこゝろせ行つほど。
そそ出ん事とおもせばとて。山川澤路の事ども。とくとく知
まうるまつのしたのこゝろ。ぞ行法とよくたとゝ年四十と侍ル
ん事とこゝろ。まつ卿て。むくとうるつさん年
ゝ。金の弓のゆとゝ。行へとい。保昌ゝ
さしぶりの法師と。ん事。揚て見る面くすま給ま
交ひ。まつ。れしゝ。笛の中まは。長の俤よとおゝ
者と待ぬ。ゝ。ぞ。ゝきき。へとゝ。ものく
笛の中ゝ。九板の前拍。子太鼓れむ。ゝ。雅の結

南蛮漢唱ゝ。ん。ど。紅出。ゝく。府中ふゝ。べ。ま。ば。ま。
大ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
人のまゝ。ゝ。ゝ。酒。ぬ。で。ゝ。ぬ。
部。紅。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。
ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

吸あ〜〜こ汁飯と手〜〜せとこいひあれこれかりひとやうで
膳と出し一ぜん盛すこぐらけ茶漬荒れ肉をでさぬぐよ
軽〜〜あっさわく〜時を〜ふ〜〜迄ゆへ〜〜〜

汐とものまど座中より脈をさぐりうけてこの鉄砲石をうち
ものかりしゆんに四郎ゆんの作りまく奥乃一刀と補助まし
あてて人てをうよりそこをのくとそいぎうひろれ陽よと固をぐ
をりうけてをかくまで仕あるかせてるかのろせをのようあや
しかりまを同刀をうつをんりうそやをうりゆ。
見れりの郎一をを破破て出んりの八畳やとあれをよ。
をの者よりおどろ紀弾物をを合せばろ寝
より働りおがをうをべしいでハせんとやら奉りく報光
ゆとおりて人やをうをを作りふつうく弾音が寝ゆ乾付ひ
一つとをを四八作のをせをのくいまぐ寝よををで。弟をひが祝

えをふ有五九作りをく赤ろ有ぬりつをうを人をの悦系掘
りよりをたりがくくと入て拍子
の息をのををつと寄てを引組ぐを。をを山地
入をく仰よ作りをを稼れよふ教を見を赤ていをりをく合他
辛をの円ふ行でを命ぬををしをを。人氏ををやをををの服
と注をんをあ添の郷を人和と蒙り一医て教害をしをを。
をを仏ドをををりし河弟をを犬の作ををやをの夢をと出一。
蘭を白山弾をを物りしをををををりしををををを
ををりんををを一正をを。
迎をんををを。保昌。浜カ辺ト郎。雁井。ひをと神をを

をぢ[illegible]小菊とおぼしき[illegible]ふ[illegible]ゝ[illegible]ものゝ[illegible]
風よりどろき出合んとする[illegible]
[illegible]切るゝ[illegible]出るゝ[illegible]氏[illegible]とて。迎ひ[illegible]
そども大ぜいと都一[illegible]
[illegible]んとする[illegible]やゝ[illegible]押出[illegible]ふ[illegible]られて[illegible]
[illegible]ふ[illegible]昌。[illegible]奥[illegible]武切て[illegible]八人[illegible]
[illegible]人ものゝ[illegible]で討捕[illegible]
[illegible]
[illegible]れば[illegible]
てゝ[illegible]

小山三郎武[illegible]
[illegible]
三[illegible]の[illegible]
[illegible]のつぐ[illegible]
のつぐ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ふそむけうつくしきまどうふたりやの一つ乃
遠の陰さび孫のゆうぐれ時やあれば[illegible]
のくりうとまちうひ一時有れ[illegible]出燈乃中うう
ゆうつと指おもて出しそれぞれ神ぬうう新入
うう[illegible]動とうきぽくくとうぐひうれ
だそのくち又ゆと出しくくんとあるぞされどうしだまりて
[illegible]ぎうあきびぬなるはるとうあふうくくあるく
[illegible]ぬじうあるうしらくうくうあと出しあるぽふうう
そううとあきうとうあうきぬ出うりうあうぬうぬう
れいびうくとうきあれぬうあうくうあうあうあうあう

しくうぐうあべしとおりひぬうくうの中うあるうつを
[illegible]うあうあうあうとぬうあうとうあうあうあうあう
出うん乃[illegible]ふ[illegible]ぬうとうあうあうあう
うあうあうあうあうあうあうあうあうあうあうあう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

新橋
山城町
△津國屋

沖津白波二目錄

極

無縁仏ちそんの幽霊ゆうれいなる
花屋敷はなやしきの儒者そしゃなる

墓場あとの油ゆう

夕顔ゆがおの自慢じまん

七偉人しちいじんの編集へんしゅうなる
小判こばんと偽いつわると書かくなる

赤坂ゆきぐ

金商人組と通るて
牛ゐ九ゐかゝる

大津ゆき道別

八尾屋三郎が書敷される
小神とん有歌ゆりる

熊坂長伴ゆうきいのり
ほうめどゝしかうきぬるの
のうゝ伊のゆくすう海世のやうに生死の海ゆくじよう。漕行
うゆれ和乃しゝ波三世つぐきゆうゆう。屋ゆれ羊
のゝのゆこ八郎ゆれ和ゆ。そるれ。郎。ゆ長れ煙
とゆうそよこそ。ゆ。ゆ。ゆ

ふ海こと紙まちまつよそぢく猪まゐる文とうらとをぢて
一枚れかと物をこ接わぢうを祝ときんぷれぬ食り
トんの書れみくよ分とそそ。わ貝のうとめくかくぬ。山
中さきれる信ところにるそ氏をあく。味数さく
くと四四ゆく。書猪川とうう縛う芋野ぢ本よ出れば
祝すく日書ぬ。くとうきばなくれ書して庸
とむをびくかれ編ゑとあくきり中の新ちとの。
紀典うきくたぢうつき見郎方ろう出ろ信
るぐり書くゆへ。ト海よ猪と入ま二枚とのうせ。
ゆうりまぐきてるあメのくのくいさうれる

旅ろんづまと世ろ悟とかれば不自ゆぐふはかんのんわくば
ろうくはうろうゆくと編ゑと軍ろ門入ま風呂
ふ自ぶそろふ芋八ろに材ハむうのよ旅とぢのきた猪
ときのくとろ法よそうゆるわぐぢ辛ろろ
ゑ十ぢうふんて。繁毛ぢそうのぢぢ。ゑ中ん
ようはきゆ中ぢげるぐかる物を接世ろるくもあく
ろるやと。優漢寒ろ分れ材揚よのくれ。ろきすぐ
ゆうれやぶきろくとふくふ資伝あとあぢくそや
のをと伝種ときぢあ。遥ろの後所ぐちるやろの山戦
の阿法池。ゆよ歳。長貝を屋ぢきろくとそで一悟け

の数ちの和風よりまのようひ乃ちとちしひ。止親れのふ和ちの
の風りと抑りちそ〇ぐ伝分乃。ち海羅れ伊集乃奥迄
ちそくと似ちすくそ少あるー空てあむるのい伝
ふ寸寸。されびひるるふ業井。ち墓。玉飯とそのちねぐ
ち弟ち弟ちどちるくくれ里ちるまち郷ぐふ武ちあるく
れの尾脚ちの数ち弟れば。最亜れ義別すく山磯ども
ちいちいー。伊業れ強人とちぐ紋雲ふひの下ちやか
姫よいるまで切ね鳴遍則伝ろやれうさ国とんる
付ち人とちとちる芸悲ぐろ芸濃の紋よち増ん
うちとちの力とりさげくどいわ風ぐとうけ出る

利の河よりそのまゝこゝ迄散々とせきつゝ[illegible]
黒川海鷹とんよりくゝ[illegible]
ゆるゆるとくろの仰を仰めとうこんでゝ指で出れ
ゆるゆるとくろの仰を仰めとうこんでゝ指で出れ
[illegible]ぶんどうまつしめ分たの方に
[illegible]ぶんごの酒屋の酒屋
とつくしひまるぎよしに黒かつまこにまぢれ鐵とま
のぐんとあのよぶだりれんつゝおりて八ちて一四九中
のうちに仙合の像ぶてきこうあつとぶられん。
さいさりあぐしはあるとと一数多生と流のひ[illegible]
利和つまに滅さ方俗乃うを指ぶ[illegible]
[illegible]ぶんよりつゝ。黒神のうゝど酒うびうゝ[illegible]

さまあつとなりぬ。紙れば黒れ黒ゆさ黒ゆ[illegible]
ぶ迄。方俗の新生さぶきつのちなよまされ。やわされ
ばるれりまありつのもぶすさぶきのみのつん。
猪せ行へとちとよ小樹下ふとの音花ちけく張寝
のゆめんぶこちとるくまぶろむ四ちあ面こ風春て
私の猪ちさ面ぶく面ぶ[illegible]ぶくく月
のうげつぶ[illegible]ぶ河ふとそのまいぶやちのどと
切り入ませあとと黒ぶ[illegible]ぶとと和ぶ[illegible]ぶやちにん
とぶぶくく人の黒とうぶびちりぶ逆あ乃ちそり
黒一人よ面ぶく俗黒ぶ[illegible]ぶのちまこに面ちひ行ちと

はらんぜよあさ風ーやといつまでかこどろき銭屋花
とあるぶくろをとりぶくろのごとくさてもまた中買と帝ー
大もうとなりようきやうとうんでこうり銭屋ゆめん
よあそうーなぐーありひめぐーせばぐーはりうーうん
蛭のたれるようり俳諧とまるや風ーるる無俳といふもの
ようやのうんぜうーぐそのはせんのりさ風さぐひだやとひ。
俳諧とりくそうーぐーはれ月を無俳乃
出俳ようくまー風とういよーくそきたそうぐひるくいちう
ぐうとうるれ不ようるまどぐすーにうる無花りさ風
ようーあーゆりゆををくもんのーくそぐーやあくそぐも

都のくようのそうやまうあれまぐうきとうとあし
月乃うくをとゆりてゆをせやーさんと十四作て
風さう初附ようり蛭をーるり
さんさてもてまぐーいるみーくゆ川浦風よりまうて初き
附そ無太郎とりゆるさきばあるれ出てゆたぐ
ちとの極ようよりあ月とめをそれまう州とあるさ無五
をーー年ようるのあをそをと仕和ゆるぐのるあれさをれ
ようを屋といるあ碧やゆるーーぐーぐーの見無極び
よゆけばる代ぐるうきくとあしーぐ新くあ花月か
ようくとさせぐーぐーどぐうーくををあとて小新をあ

こせあるとぞいのんるくるよれて有にいるんとき一時ふ
ゑ代めいるくづりて今乃とちく南〳〵行といくど
幼んの日やくさこあるじやゝ〳〵と爲んらやいぞんる〳〵
見しと習〳〵やと結と一なさ〳〵出さばぞん吟あふ
気ぞこそづく小判と印ふにおきて結を拾ぞきはらの
代。うまこそるるかうつきさるく小判とれてるで
さうぞこ爲いぞ記るとこてきて書出書するるのを
大切る者ぞこぞめくそきこ有ぞ付てりいるす
じやとあるひ出〳〵ぞる附見のうく〳〵新とぞやりと
ありてそうく〳〵と解を有きあり。かのあぐやはゆきて

こうきばんせうは金銀うちちし〳〵金あるそのよそと。
出〳〵ぞかるく通り者きばゑ代どようちとし。
やあそのぞ。ふ欲ぞるいとそて金乃よを結〳〵こ爲
の行ぞ者りて家人〳〵こよそ人にりひだろれ
りまぐきぞ。ぞるやゑたと仕とは金欲のわじやゑ
ぞろも。結とふ判と習る家とあの〳〵行し〳〵若う
ゑる人こ乃見人とこてかこちに京のぞ見よ新る
こ金とそうと新〳〵る銀に入きぞ石にかてこれ
ぞきこ分七ぞるきるるわ〳〵有りての行よあぐやそる
金ぞこ人ぬとて金銀〳〵れぞも幼かるるるれだろ

よいんようけどぞんぬるのとこどもをかつかれ。
そきこうはくくせんきをとるふきてこびぬとこをるす
ゆんようのり。一郎こぞうてうこをきとやうりぞうはさ
ておそきあきこびまるこの歳よりて祝宴
まるの初面をこうつぎんこうをれこまるべきこれこ蛮人
の座入をこあるぶつの府図頭のめを人どもをかとこ
ゆ面こうせばよ出まるふそきこびよぬをこれを留
よこあるべことて祝よこうさるぶ八百屋石行夕飯一ツ
ぬをここうぞれこうぞ東河原石出迎ひをこるぶを勝
立こうして見ぬこまる遠ろくとん金ガ乃幸りきこび

こうこうれこ小力るこ後をこうこと持てその夕飯乃中ゆこし
ここくこまれぶこうこれる人くはのこと有をこいるこ
こるるこまんこまきこどこうれこくこびぬるとこをこふ
ぬこうこびこをこ人の前ぬかこうこるぶ祝こけこまこの仕合と
いこびこそきこびこまるこうこここ

あるべしとてその夕部と別るゝときに中よりの名作乃
小刀よりあれば拙者なりとて時づきて我と
打くくはせおそるべしくくとうかゝるべ
のちは濁のゆゝしとけあるとて下ふ沙汰を城乃
青もよぬるゝ。沖ゆゝうくしとを聞りもべしと裏
美をしるもよりゝ十文字の河ゝたんぜ兵衛
利りよたゝがらべきゝるいよそのろたんきんしゝもろうれ
濁酒よりおゝくぬるべの美味ゆゝけをゝ出ゝよゝこれのゝ。
と無後のも体とそて紙ゝとちゝめ寝酒の祢ゝ
いるるまでゝらゝるを吹てゝおゝそゝゝりゝもゝでゝ小年

みせ[illegible]ゆるすべしとて二百十ちかくの人々とこ
ろどころの富人[illegible]よりあつめ[illegible]紙貨八百の
あまりをとりて[illegible]南方[illegible]
よりもとめたるものゝ[illegible]ものゝ[illegible]
ゆへ貨幣向入れ方悪向出とうやうのことはうげつよ
のゝ[illegible]は猶貴とうちのゝ[illegible]
ざる向[illegible]ば[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

うさ[illegible]
代[illegible]
[illegible]

金高人雖[illegible]
[illegible]
[illegible]

ととしたる所の方へよる角なるこの一ぱいとひとしく同えたる
なのの松ばかりさいつてよる力はものをさきくいで弧をあ
ばをふたの門の角動をもりたる者。三番目九郎。丈出
のふ様のそこの松ばかり。三番目九郎。ばをちんをあれをいざ
ありしせてうだひとり。前二年中れ酒もにをん智略を
いうふをきこれとぜんぎ詳説ばうぐよりるるしく
動をたのはで世三つ門ばらをよきをふをや入きとばつきやう
のひうしれをきこのセナ人あのしねあをりさげく
猶決ば議方ありしせ門を被て門よ入きばるのれ入しる
下人どもはさうばよ見をきる角一ばうやらんとばつきる

ばうしきをあのへどうつるへまるをとばつ法書ふ
あばりうきば所見よぬて奥のるにあをこをるとばつぐ
いくあ所をばうぐき入りるあ九ばよを角を結やばる赤ふ大物の
あ九年あ九ばばうをとりのふ神をばうばつさ。猶るれをき
るるあいりそよをとをるをりけくぶ方をあいて猶
結ばるぶめを人をを一るにを入り続松ばりばるをきばをき
ばくぬをのをばへりるをしくばをれ角のたをやふ。
うばきをばるこの方ばしくこへで結をありとをく
ばあをばばるばばよ角をうけばきあくぬていをて通し
とばるばりるばばしるを九松ばばばばしぬをへ。

わて首中ようちおとせばぬれ足よりもとのまれこの
ち端でうあらしあとぞえんとうしあ妻ぬのの利秘
例をつくしくしうひまくありてうとてむかわをとく
十ぬ人あるす花よ切ぬせくまぞかあひちかとまて
今かうくあるまわぞ中ふ結石のふたかくもち
くちやうるまくとぞせとおひわのどつく結ふしこ
にとしちぬのきぬけてくべきとぞ三人のまうれ方
まつうくまくいまくひうつくまとぬ換き東ふ
びちぐ人扇さくうち乳のうけちくずとつて
おくしぬけまくまうしぬ揃くまとぬ清くかのあどとるち

下ふ井さるすぬ人のあるはあとれまびあとくと合れ
かのまびくうあくあそうくやあげんとてびちかまりさ
おくうろ孫くくとうまるぬぬくくとありあくうお
くやうちもめぐ切ていとかのるうかくんそ
まぐ和例をまるひぐ鬼とあれ結橋とて中まつ
うんでこぐんまるすぬくうまくるものどれいでまあ言よ
結ぐんとて門ようれてぬくくのちかとうかいこと都
まくと積ようまるのくとくぐくくぬ結おくうぬ
ちくさぐちあめくさそぐあぬぬぐげうあぐり出とて合
切ぬくまぐいくくくくとぬぬとくちら

へで花よりうるをもとめてはうへ。遠うけもそうさだこ
むもちよひ〳〵とのきばそもひとに。さうてうけハ
うけあづもこいふむ初んやとおつれもうとうく三三三
よりくきばかるさおよ三かくきまへ。こうやかーことこ
づめうおよりひげけるきこうーろより。見くり遠目と
施と切るるむ三奥だまきやうるすよ。今ようう遠命と
うふりうくもうーもへすげもてゆくをひろぶくーまり
ぐと遠うけおひつあうらんとれどうしーうろれもと
うりもおう辛すきばなかうくーとに絵ちもー和物
の奥うもむーくもくーれまへ中〳〵そぐ〳〵寄うきば。

今とかぐりと汐汗とすぐーもこのひそれぐる。汐者く
ま者ひおひめ。けきんよりもて者見ついく
ものあらーおーうひれいの切ーかつと者りて打
もうーいんぐるめづる車切二ーよ必てうるきゆくーび松ぐ
の者乃寄ーのもきもうる紀義ものぐうーう見までこと
ク消の名るる猪と笑ーく程とるくーぬももうーくと
お物の人元とる紀松濤よ加りて紀母松うてへうく
いるのおうげとりとけきもやーーぐ
若衣さてなーへまるれまるまーー
夢時ーよめうーー神の寄うか

とはずさこそ極楽あんへ[illegible]

とゝろうゝゝゝゝ行ゐまちゝて

八尾はゝ[illegible]書教されゝ

最風は[illegible]水母[illegible]羅はゝ[illegible]

[illegible]郷と漢乃[illegible]の卵ゞ[illegible]

ゞゝとゝゝゝゝ[illegible]年中[illegible]

卵とゞゝとゝゝ[illegible]海[illegible]人を

八[illegible]ゝゝゝゝ[illegible]

[illegible]の[illegible]目[illegible]

[illegible]ゝ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ぞよのべうきつうあ
トかをとそあうき一日庁附が紅とてをぐしべきとお
りひきや命つきすくうろうまりりやかうを
のもにちきいやる男ふわひきつしうさ見ふ
ちのでいでをんまをよくくをとてひるをのしばんこづ
うを寝ってそのちちをかくとんまうせをきちさ
きてぞすきこがきてるちのうさ面をとて八尾よきすだに
いとんをのく紅びきくりうきをとてう男臣して
いくりしがをとてよちのうべさるのく紅びりしる狩と
ちりをるり門おきくりを出られをぞいちるこぎ

めくハ神ゆくはんくくきを洋れたりきぐうにゆんくひ
どもを弱よまりせくちの西ますせゆくぞそをれちにをよ
とをきれをとくきをあを川をやその年をちくを
のをきよるれどを来よういるせれをづきちのぐれかの
ゆを立を船ようを船ゆるふを立をやわるふちをあ
をくまくりんをきくでを孫にをくづひゆう
だやとを乳母ををををかいひ会せ船をよまをぐれてちと
ぐき出るを中のんくるをきかの紅ゆを大猿れ虎ぐをを
かくいるををくくやまをりひやりを伝うを出をあを
をぐくを辰うきを出れ月をくまをかゆうれば

位なきゝ荷れ指かとそふゝく清水の流
ゆゝくそふ撫つる金剛寺の表の苔紅紫の風ふさ
そそもぴ雪れそそよちつ切らんと簡やとありひきゝ
きつゝ行そきハあよつきさぴとゝく郭の高ゝとゝさ
よゝゝくゝやをゝゝひゝく彩まやり紅ぎりつゝ白川
の橋とゝるゝて

あれゆくゝを来きいつゝとゝゝ川れ

水乃ゝのそれよるゝゝそるれ

桑田に雲山れやゝいとんぴそうあぴゝ秋ゝとゝゝえゝく
ゝゝ乃そゝ移ゝかゝちゝる清水鉢ゝゝゝとゝの出て

きつゝひきそゆゝきなゝ抜れ雲ゝゝ人
ゝひゝきゝ人ゝとゝゝやゝゝかまし

とゝていゝゝぴゝゝぐゝゝゝゝきなゝぐゝゝゝそゝれゝぐゝゝ彩ゝゝむ。
ゝゝきゝゝぐゝゝぬ女殺八所抜ゝゝる何向ゝゝゝ古人ゝゝゝれ
大人ゝゝ海乃ゝよ立ゝゝきゝゝゝ。ゝゝやゝゝ女人ゝゝにゝん
ゝゝゝぬぎ海ゝゝよゝるゝゝといひ市きゝぴゝゝゝいゝゝゝ
女ゝゝとゝゝゝゝひまゝゝきそぴ神ゝゝゝゝ人何ゝ
ゝぴきゝゝゝきゝ大海抜ゝゝゝ百姓の仕ゝゝゝ山祥よ
初ゝ人ゝゝそゝきゝゝ人ゝまいゝゝぴそゝゝと在ゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝ塔目のゝゝゝゝゝゝん海て通ゝゝや

といひそれば猟人中〳〵合点をいてまへ〳〵あぢ〳〵に海
ろくよりいろいろ〳〵米あんこ此人くの風俗をとりてれて用
の把る蛇するまぢそのよいろ〳〵ぬそのやうの伊勢よりやう文
よりさふ神をあくうふ百姓づきれ女そ〳〵そこるのちかぢや
るまへ〳〵りふのるこるそちこちち郡より郡大内でまちま
下郡の女でるー長水紙ぬとふづいあ郡。第引れどさ
るく〳〵と光探よるるのこまあ〳〵どこ〳〵や乞までぢやて〳〵
うあ紀ぢやといひさ海のいぢそる〳〵二幅とりそづ。ぬし
らへどうとうさ他をば二人〳〵りとりふと言ぬを人どるし
よ出のひくるぢたをけめと体もれば人ちく〳〵を言を

りんどうすといひさ海ふ女あのこぶれ紫ちゃ出たりう
とまるさで一力よさーうるとぬのとりとをけびーとを
をとをにてさづきと接ようりどびとさーぬりふかつて
とつさるるぢ行つどぶりふ息ふ人ぬを人とかやを
と中神を荷ふ引りけて見ぢやまふ海の方く通れ時八番
ふこ事ふより。船と日ふ沈でぬ京をるんりまて備と
行あひ。ぬ人がかつぎうるふ神をちく〳〵とをとぶぬこれば
紙とハりよまとの氏まそれ。ーぶあめよりつ〳〵ぬ番ふ逆し
そあをちうつのーまぶ。ふ海ふれば行やーくおりへりちづへ
さ海ふ入ぬとを乗て神へるまへ八仙宮山織と言へ〳〵りぬ神を

いづくまでもそこなわれしぞ
ひとりぬまに白波せよきものくまを貢と
打ぬるとさなく拾ふとなく拾ふとといふ入ふる人ふ
のこのかをとなくさ海をもてかゝれたいとをのまく
打こぎてゆくあの玉藻とるる同業ひとれどもえ歌と
そうしかくいひとれあをつのとしおたのるきこをを
さをそろこのをきてをこのをの男かのき務ようてよ飽たくぬぬ
りのとてがこうする橋おかれ中をまづり付ちくはとをてた
たれ猛をとおもしいのとと鋼う周景ハよくくゆるおそ紙をひ
こまを天紙をあしくくといひをづくくスあ見をを切てをぬ耳
島をと刎をのづく数をのくを法くくを京に鋼う入ぬ

新橋
山城町

沖津白波三国源

山科中ね入あれる
京ふまれるる世れる

高砂乃海面

夷をもたづくまくる
都上龍ぎれる

山をれのをけ

御殿山

仙着亭主人の茶屋に入る

東海道名所図会乃ち

品川鮫洲

東海道より鮫洲の渡あれば

品川の裏小路なり

山神宮 社入あり

いつれのころかこの宮ん年号不詳月日をもんと称す

伝りいるぶ仏のよりもとは久しくくるぶ宗

としてもさぶめるれ世れ中とあるひやうふ付てぶのうぶ

ち神のせきいつぶ。じ。しうとも。と。傳てたくり

ちしべ。部屋数多のあり。焼こうるまぶ。なる。茶屋

のうちふこうぶちもしまぶ。そのか。治ふの。茶屋一宇ともたぐ

ぶ。ぶ。ぶ。

そもそもあるよ海の猛風とて、ちりめる屋れ風まで、秋と成
ぬる夕べとのしたるくよ山科中納言やすくに卿、和歌の
道の名をもて絵書き給ひしに、そびやかるまでこそやうに
ゆとつくしぬよろづ、くくくく

中津日記三

ゑぼしをいとんでかたく紙乃白側よりかるる海士れを傷ら
揮の高ぞりうしろ高やまうらゑんぞやくくうう
そこにうのびぞりなりかうこ丹ぞ面をつひうくをあ
るうしくなばえ面中ねる
そこそこと風よりまうとる丹と乃
海のうちせふくやあうさん
小の方ひびくるを紀ときこうてういやうしゑ
海まうしうきに色とかく黄て
うしうて風よりのありてん
附しと秋のとおつうもう月れ淡さやう小海東

和家ようして名度の家れ揮の森を深よ神をひうそひ
えゑそでおのこで如るうしかり節ぞるさに旅れそを
いづくもといひびくしまうしくかるれうう丹びくそれ。
中ねる小れ方をうとうにその表別て邦方をりひ出る
ううびにうきうしう昇うきやうえうしもぞうすれ
えその宝れとえ色れ附ひりとのべしゆへべをいまれ
やうしまる風してうすうしう節こ八縄引面に躍魚ま小の
がういうる風ひと実とおのうそうき。邦ようえ入ひうしく
ゑで雑れ合絶をうと。網徳のまうこそのへぞうひ、緒書
こうよてていひ。又をやいてと面くう小彩れどのこうく。

ぶしよりの用人海ゝ出しゝ。そばひよりゝ下部
まと辭ほどのませかまと見えたれ。ゝ
生辭まとおろかにじやこふ言るどゝゝひくゝ
ゝ。ゝ。ゝたびあれ。ゝ八とゝて見ゝ
まんぐり奥表ゝとゝ。ゝ海藻ゝゝ。年六十
よやまでゝ遠別相入と業ゝ。あゝて人ゝゝ
ゝその報ゝゝ。ゝ遠ゝ彩れ大めと人ゝてあり
あゝぶるはゝゝゝゝのゝいあんゝゝふゝゝゆく
さゝとゝのゝゝ。ゝ人ゝゝゝゝゝゝぐゝ。
あゝゝゝ。ゝ人ゝゝゝゝゝゝゝゝ合

ゝ。ゝ捕ゝゝ海ゝ実ゝの紙ゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ用人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

出てゆくを見て御部屋の新造と嵯峨とむつまじく婦人と
なつて御部屋にて新造いとゞ見て縁
よりまつ所へ行てゆくを見てうらやましく思ひ
ながめ居たるを見て新造はいよ〳〵
身をあらためてあらくもばかりき
ゆきどよりのいきつかひをかうるさけるさまをうらや
わらんぞうんとされどくきたりそこで行とれくるやのふ
なるをよつてうらやませぬ方なれどもうづき
なやましくはやはりとれ伽ろうはいとるや
まいりくとやれどいくとやれまされぬそれで

ゆうとして出家まいりませのうんさんとびゆきせうあと。
そのまく奥よりうづきんしきびはれ流
の家よりまづこの小ぶ見で出乃ちやうとこて
ぎまんさいちやうさえ乃矢ぶ見やうに云海
きてゆうぶ小方れそだつくとうそひの言いふ
邪上藉のようさのこ月ち円
てうこきくおくそうぶ。ぶよ立邪ぶ小ぶ
浦れそども的月小貝を拾ふ海ぶ見海ぶいこと
とてくしのそびゆうおとうもくぶ伝るのうんだうう
端出くんとすぎこのやうに紙入てだうう

あまいた

ぶきばかりにて雲ゐ出るものでは[illegible]
とはやとかりつくるとてらひてあるね
ゐ〜ばかりにて[illegible]
ゐあきゝんどあと。人高人といつたがりあるいとの
ゝくひかりらやうふねいくもりはぬ[illegible]
ゐだ〜〜〜〜〜〜〜〜一ゐはぐきあ一ゐをかぐ〜
すぐ〜あきばかるどうくはとすさだやとあぐ〜
ゐ〜ばかりとうちとけゆるゐ風はよとすすゝのひて。
ぶのゝ〜〜そひるきまいゝ〜もろう〜はのゝとを三はゝ
ぐゝ。一樹の陰よりとうはのりぶきとてひよ。ゐの見れ

生れ変りと申すあとにて、ほとけ様の御ものがたり
今にて新たに聞く儒者のるまばそれ自
の事実はかくもあり、くわしくは新で今きいてひまを。
二世うけあのちがうるまば人の信仰とがつがつこの人
う。さりながらそれで今きいたほとけ
ほんとうの世界がくぶ。そのいのちは新まで
よるやさしくひしゆ。浮塵の儒者よ人とかしてば
のの貝をやしんと考えすれつめ。中より法
と拾ってもまもり念仏ばかりしうどこと。
ひろ貝の位ひるまばかりはこれ同れ

かとうしゆうげんひまつ人ぶちかつ〳〵見とゆそれと
そやとれのでこうまぶ。ぶどぜうるとのしばそんん
阿弥陀仏南無阿弥陀仏浮ってあひとかるへ
さでやさのこべぶ。ぶんしんいそんやそまを拾まるとば
ふるとと方法とと書れ中よりふさくくまつくまん
どうでよぶやまくおりひまくいひまてまの四のうそ
りつまぶ海ぶとまくくまりぶ。ぶのうまていただば
うりまゆしぬまうまうくおりひくぶひそふふの西と
ぶび出るくどまでひ西れるそるくまさうにいづくを
さすまとまうくどぶくまぶせくそとびまぶ。ぶやの

ものどよ過うけまるるものやらのんと掏ぐ〳〵つぢ。ぢく
よんへとんをせうぢ田へどもあさ〳〵ふよこまへど。
そこしこをもゝ〳〵ぬちをさ秋のろとまろべよたどりゆく。
萩ふさとそる風のぢぢ。ぢぬ榮よをぶく出れたんぐ〳〵
までをめを人の追まるやゝんと。行を田ゝぬと消
うやうよあぐ田ぢさきどよ。きろべさ夫乃ぢれをや
ゝをん。秋とでよ田ぐをそうる田よ墨ををゝぬ
海秋の稻ぢのふをさく人ゝきぐ田ぢのうふ寺
をうなうゝ秋をと稻のをゝ杯ゝをとをろべよくゝやうゝぐる
ゝくをうを田へ。村をうる林ぢ中よ秋ぢ神酒をうゝひ

をあいとかをとうのう花一人軍よとを酒ゝうくいと稻稻ぢ
ゝるをうをそはひ。ぢを月見をつをきあへどゝをゝしゝと
い家よ尼をんゝり田ゝりをゝをゝをゝしゝと
をうをうゝ行ゝよをとひ行へぐ。ぢをうをうをうをそ
ゝりゝろべをゝをの酒まと稻んどろをうををを紀をひ。
をゝよかる個過をゝをゝを見と長初獄すて。蓑
とをうゝ戒をうゝりまゝゝをゝをゝをゝをゝひて中れ
のをうを秋をとをゝをゝひ。ぢをすゝ葉乃をうをのふををを
ぢゝぐを芋稻乃をとをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝをゝ
まゝをゝぐゝ。つをまる紀命ぢゝ人をもまゝぐゝのゝれまよ

いりてぬのうらをかのぬしうちひろげてみるに
今をひとよのうちにせるあづまどりとる
うめぶねの花のさけるをみるに
うぐいすのうたうたいてとりこやどに出るをみし
まいりてせをうとの参とてやまぶきうりする
をとこどもとりつへそのまへに墨染のふつまをつて
うりをもとめあつかはずりやまどりと仏殿を
編うりあつるをみるにぶしもとをいれるあるすぐ
みちをうりとるをみてぷうびそをあつまりて
一ぬのうらんをのうらよ入しうりけるをやうふもし拾

ぶ光高僧とうらひろぐ〳〵彼沢浄土ものあと
うるほのうりしぷうにこの花をうれ者をのとし
のうらどを幅金をるをみるはは者とのうてす
ぷの芳香をれ光八りそあふ風の仏花をいひぐち
ぷ樊しなるをうりをうりをとをぐ〳〵ぐ。ぶ作をとをぐ
てくれをとを大会をとうてをうをこぶ看病をるとの
やうをるぷ。大柄扨ぶ〳〵彼のとうるやうふをとを
うをうををこどもぷそのうをうをうをうをうをこと
うり和なるをいやを面をうぷをとをこどをこどをぶ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

寢めよのあめといひあらそひゆのだうするあのあを
ひろしかるとうるおよぶ山もれ緑ハばそくぬてくそれ
ぢ十よ一つくしぬけるひよ大藤ぶうりおわさ人義
しくぶとのく吟私と猪ぎとくこ人生る源たら見しか
とるくぶかくあとぐ紙さびるあるぶでひとり西代り
うしにぶきうやん乃ものるぶたのきと
あのものるんるびうるくく祖ふとぐひ指とうあく
一ゆとそのまだやとありひ記掲りあうきばぶたん
しふいまいるくをなようくくるるとづう十月祝よう
ゆうげようぐひそれぶづきとかくちた倫よちる見

のごとく。郡ごとに角生ずるもの数十人。引つきて出ずれば。
涙をながして。ひとびとに。おのおのに。相ともに
下より遠方に。鳥を射る。一日中に。名をとる人。
死人のごとくなりしかども。ころもに
うちとりて。面をとりて。その角ある人。ろふ者
らんだ。一角ある人。相とともに。
すでにかへりてこれば。角といふ。ますます
鹿は。立ちて。走りて。
鳴きぬ。ぬるるごとくにて。ぬるる。
しらくらしれば。ぬるるのしるしなり

ぬるるの大なるものは。いとも面白くいぶやは。
紅まぎれて。一猪頭。時見れば。
なりつるぎ。やといへど。
同じくいつきて。立ちて。
そひ出。面白。首だにうつ。髮をきしくけるかや
うきつぎ。ぬる同じ出合。ぬるるのに
みすみ分の耳。鹿と三宮まで。
なりて。ぬるるかみ。七八月。
わりとぎめんと。あきだの。

あるよをかりにてらしたまひくめんぐんぐやぐて面とうぐたる
しゑ勢門に入るよりあれかしまれ新五郎下男とうぐの
引つき縄をつなぎに出る。留るあはあるとかうう
るむしとあ一人ぐ女二三人ぐ抜うとうあ出して
居るうるあめをんぐうと入るうんかるうしょう縄と
けぐて女房よむうひくしまれ合れあくさうと
うるうせふやうくうきるすいそぐそのふをとあくへよ
いぐたあのぐ一ぐさ一ぐ報んとかくあのいひあれば
女房あのさらぐぐ伝のぐさて合うと面ぐて合報
とびのぐうまぐぐうよまいくまぐ一ぐんいるまぐ一ぐ

うあ面人合れるうをとあくへかーさんぐんぐとんぐぐとうとびか
のくへ縄と解てさあくへ合を法をといよ女房ア面
ふ人合報とびのきるうる義乃二階よだあありれをんをよ
入をさ伝るぐのか意報ぐいるまで大うさ二階のも報
ようめうを出しくへ報あうぐのようくへせるうてぐ出れ極
とうをくへうれぐめをん伝ぐと伝人義を軍て抜んすと
出くへ二階によりうるをの陽ぐかの女房下ぐとうるひ
義のうんとひくへとうくへうあ寝とあうくへぐて義
出うう時門にうをて法ぐうう強とれあひうをとうぐ
見ぐめをんの間報のくんと通ぐう時法ぐをつ夢とうげ。

かまくらごうひしのつぼ。そのときごしをのせられあるの
もとのものを人のそばをたてられぜんあるうりとくとんかけうちぶそて
を女の分とくらるるをもつてのそこかるる女房をたてくる。
ちとたりしもそうしいざとうしゑをこれをうしく
云々かとものこと。きのよ平代官ぐそんをくれぶさしばかりろ
さびめしとまことてゑるれくく数十人義よ一村のうれう
ごさ海りうの義をゑ迎しゑ和のるを行て義れ高ろう
法絶と打今れびめを人ごとくくくいてくしてゑれく
大変をとて金をとたをけ行をきをやうふをゑ〳〵とゑ。
さ〳〵ばとて義と罪ア白ふ央蓋を切てさわ〳〵出ぬうくと

さいそくをきぬをと合ぶ〳〵衛をめぐるの〳〵ゑ
出るる西をとこ〳〵めゑるぶ中ゑて弾をれめをくとび紀
ゑをとゆて中をふかくきのさいがきまちこそう。和よ入
てゑさ面ぐ長形よさ面をとく異れ面るどとうゑくと
まぐう左くと達和させゑうとぶやうて古ゑ西をとぶめ
同れ九人引絶切よゑり行るはしう れ陸右ろ西よ行ろうさ
玉屋深ゑ糸世ゑ右見ゑ和のゑ
鮎のちつうしずこずと出ぐけ乃八文ゑ。髭付ゑろうとをけ
もふ。菜加雲れ和義打ゑ。けくく八おちぐれ編ゑ三引四ゑア
伊勢町義れ面ゑ代玉屋深ゑ糸といふゑの。霜月

新宮殿のうふ中村ゞ芝居にていろ〳〵新こせとちんあ
しあつゞ。ぼうう。ぼうあ。ぼやゞ和藏と和〳〵ひそうゞ。ぼうたてて
あそこを出る時。ぼうあ。ぼうでい〳〵新ゞ。ぼうと
京判と押さう。ぼうあ。ぼうあ。ぼうとしひ〳〵と。ぼうたのまこ。ぼうとて。ぼうたゞ
和藏とめとこうでぼうあ〳〵。ぼうでぼうとい。ぼうあ。ぼうひ
ようゞまゞ大。ぼうあゞ。ぼうこ。ぼうあ。ぼうゞ。ぼうあ。ぼうさ
ふて。ぼうあ。ぼうあゞ。ぼうあゞ。ぼうあ。ぼうあ。ぼうあ

新橋
山城町
津国屋

沖津宮波四国縁

阿部野氏姓

石川
[illegible]

生駒
[illegible]

[illegible]
七条河原世乃[illegible]

大坂乃花御

文化年間世話の代
男子淋の為ん乃つるゝ

京都北辰巳

国全代乃俗つるゝ
牧村清之丞つるゝ

石川丸右馬之海世代
山より降とゝて雪ゝ俵の米蔵荒仕ゝ。猫ゝ
ゝる邪ゝ馬とゝゝ
ゝゝ京丸を笑とゝ
馬と流ゝゝる石川丸右馬之海世代
のゝゝてむゝゝゝ男。生ゝ玉ゝ生ゝ列清私
生ゝ面ゝ長八とゝゝ猫とゝけ。ゝ分のゝに肩と入
ゝ武ゝ丸ゝ義ゝゝめゝ。
今宰人の身とゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
年ゝゝ文化八年馬小者の付てゝゝゝゝと海門玉石川
邪ゝ。門玉庄ゝゝ猫ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とりつきぶしにまくそのうとぐつをぬぎて。
あるいは氏すくひなまびたのむしまれトよあるとして。
川をゆくとある石川乃くさくさ色汚中くみ寄
よりとるそんつゆよりつくどどさうとして又他あるよりとるし
ぐさおくまくびん高のよりあぐくく汚あくして時
色とまちぬるぐさをまくとるる対だやとありひ石川
あるよりとうとり刈色とる石川ゆを巻とうくあ釈よ
三人五合ようくまを手わとくくあうぐとうり
をくくちくあうぐまびぬちぐのよ憲さびくくり梅と
くるくすぐあるくぬぐ又びまう紙死よ白とくく

沈もあちぐまくくけるのぬいるるやくくさ書とよし
あるとを白とおるるすこぐんよ男乃底のくくどとるあり
の侍尹を有幸とい云のの小役をよるりぬとろ郡とく添
九郎郎郷を人金蘭人のるる迎よるりて。八十ら決とと
ひとりくくのぬうきびて。ひとびトまるさ石仏ととれびて
あまでそまぐくくまぐ行そ居るわでるるくくぬぬのよかく
まくとを白の月業くて行あるうきとて。あ居よのを百文
とあぐづまくく綿とつまぬ。人をまつる海乃に出てか長
と卑ぬ当行巻と我。前れとくてかせぐなれぐよ巻
の乃尾を切男氏人くまるくぬ。人白は一交絵ぬまる

バ十日ちまつ[illegible]くくくくとゆへ中ゝく後世ゝ[illegible]
でちまつ[illegible]ぬとおもひ寝れ起ゆ[illegible]
えんと入きこゝよまつ[illegible]
めゝくゝと門ゝ人きこゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]かるゝ[illegible]
しやうゝ[illegible]
二人共ときこゝとゝ[illegible]
[illegible]
こそおそゝゝ[illegible]
ぬゝゝふ二人つき[illegible]

[illegible]ゝゝ[illegible]
めぞ[illegible]
くゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

なんでよ和邊佐合しそち氏義まを伊くある悪先
見を敵みたらやわ口出そよ氏まろ氏ま伯乃てうび無ふ
出ん吉桐悪吉こりや見をこよひちくしたる鶴どの
いけ氏くりやめをんのゆ也堺じやといひあきで。
みたをつまびひ新くくをきだまをを縁れをの氏を氏
ちくぞふをのいつぷひ上つる無を伊の悪吉そをきこそ
伊の孫の接元時くじくをろくゆりてを孫氏
をんぷ伊でよをろをを佐合をしつけくけてをる
新づををくくをぞづを新ををくを新で新田をぞくくやと
をくりつまををさわくを新くやあきび名ぞくを

ぬと異こかつくをくかつあをくを
氣文氏女孫さきくを
おをびを幸氏孫る氏をくをを氏をを無をりとて氏を
きをびつる月見氏屋るせるをを氏川を無をりとて氏を
らをどを上氏をくくをのあるをきてをさた。悪吉を
をくをひくをのくをくをくをしを阿部の孫を
月仏悪くとて新かをくををきばをとをてをりに
をくを氏墨でく海氏義の屋ふ引をくを海を指をや
をくを氏墨をりでく乃孫義屋をんぷけ孫人氏沢り
をんを伊けておくを入遠ををを切氏をくくをくを

あく笑ひ居る時よりあるかのめをもとりかさこんてんに揚さ
らげすり搖神下女池蓮華搖なれ有ふさこる
とりよりゆ湯あるようこ乃ちあるくぶきのあるあるく。
神引廊ゝるところ人分ってこと奥にゝぞりめ者の部と
ちこと者代世乃ちゝこたまりゝ人分入ち盃つに見と
ちあくあちとちろ分ヤアひ者代田丸屋に久ちさふ神さ
つきてこる女分二人を向りてかりこちらげてへのにしなし
ちいさ波雑波の後ゝくきちとのむとちあるぶめけまり
ちるちうすし○とべちつと抜べゝとる代搖出てこる世者
きべ抜ちうかづさ日代者門ちくまりぬちでふちの抜

ちとこ二つるこりひ田丸屋が浦にまりこり搖代搖ちとこち。
面ちとちつとりまづゝ屋ちて屋者ゝ出べ入ゝ
ようちとまん者代ちこちとこで者ちりゝ出ちつと出者ゝ。
二人の寝者ちりまつきべこ入ふと見ちさ面ゝ搖搖
ちのちこめくこ出ちのきちちを言ちこふびふ丸て祢
ちづつ世掏のつちうちちゝ面きべつちとぢりに二人乃女
者きの霜と清ちまりぬ者ちるよ者どちさ代のつちゝ下
男者きめちと人と記者ぐりて搖ちゝ搖ちゝ弟ちゝ宮さ
ちゝ見ちゝちぬすちこちちとちちこ人ち門入ちち
者吉浦にちう見ちとぢりふ迎りまちぬるに入ちちゝ女

[illegible]ものは
[illegible]ぬ[illegible]とをのひて
[illegible]ゆくを来ぐくさ[illegible]づを運れ来る
を松ぐ枝かるこのことを為れ爽。亜を家人世よ新さし
ゆきしの人よ休まんせ[illegible]を家まいりんをと金を入して歌
を和業れいとかせとかこ[illegible]せとりかし糸をうかをき
ひとをう。[illegible]ぬ世夢と遠[illegible]年の須ごいを
金さ。さて[illegible]を運を大まぐ[illegible]金にをきれぐ[illegible]
うを[illegible]とのぐきおゆ[illegible]んをつむ久少祖[illegible]を見とをのび
を[illegible]り。[illegible]をむひ小[illegible]を[illegible]ぬて見とを[illegible]目を
おををぐ[illegible]福[illegible]を年間。[illegible]を[illegible]ふ見ぐ[illegible]られ

[illegible]を[illegible]ふ[illegible]を[illegible]ぐ[illegible]れ[illegible]ぐ[illegible]を
い私の位を。根[illegible]を[illegible]んとを引ぬいて門に入んと
を[illegible]ども。[illegible]を[illegible]の[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]を[illegible]ぐ。[illegible]
を[illegible]の世夢をおれ見ぐ[illegible]方に[illegible]る宮を法[illegible]さ。そ乃
[illegible]ろ[illegible]びの引出をそ[illegible]られお世[illegible]ふ美せよをて夫れ
寝世を[illegible]を下さる。こ[illegible]や見をとをよまう板を[illegible]を[illegible]て
き[illegible]ぐ[illegible]に寝[illegible]を[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]ひ[illegible]。[illegible]ぐ[illegible]ぐ[illegible]べと[illegible]
ら[illegible]たぐ[illegible]ぐ[illegible]ある[illegible]をすぐ久[illegible]れ[illegible]ぐ[illegible]て世[illegible]
あ[illegible]を神[illegible]を[illegible]ぐ。さて[illegible]ぐ[illegible]ふ拾[illegible]て茅[illegible]と二年体[illegible]
[illegible]ト薪又[illegible]抱その[illegible]を[illegible]ま得[illegible]をのくむ[illegible]を[illegible]

よ五月わけてゑらせまうとてろくしびのひあるやう。
えるもれをのだろくしとあり。迎のりのもるくえろう
と世をのりふまりめあるぬをろちふあどろさ見伝の
るすでしきまろくしるぬやわあきまばしあんあ前
稽古のわるくあ稽つよ入りと手えへとりろう紙
奥うだひりえ冠ろ不よ究んづるりあくれどよりい。梅
図頭ハとうづひらきりいふぬそのう矢風と笠て世石を
彩方ろくどりぬ。ちちつとびりろちなりて不ロ出きま
で弟代あ空えのりのまとの治円ふと踏せちろくれへ
とろりいる主ろ花いそびせ家にのあくよおのろ、歌こ主ふ

竈家よりをべし。ぬかごうのうえにさうりけとまつざきこば
死つ病とゆるし近所おれのうちにてやうのうくねじ
ゆしこをたをいきといくもかしこきこと乃。弥陀ぶつ
ふさだけ抜く科の志ろし乃紙のぐりるれまつ小
おりを所しく山路を引ちとをもつじれあやこ指よか
くせ宗河原に居よりあるりかくこもろくなとちうこ
方ふんをこをこをこをふ大竈をとへ下ふ筆とつこかこの。
さて科人の縄を解新をれものとやぐてかぬふれて入。
そのまく新よ史をうけしを仏家の方後よををとくこ
筆撫へ地獄のうしうやを分のを動てこのおそをもぬ

変一をいくよりのこのやゆうしてをを毋れるうんべが
行のをのく紙を焼けばゆゆこれ宝ゆこをに新ゆくさ
見よ大ぐ毋れ唐よ引ぬ文ちをつ沈ゆぐをたこ新て
ゑ川やを毋れ志ぬ物をつくるをを
世ふめを人れ物をそこ人をぐ
とをゆしくふ史をこの年三十七ゆしくを史ぬぐ
葬れをよをうぬ
文れを義仏を元のを作るの
ぐしくぬ又ぐしくやを志ぬうんゆ世をを八宮し
くををををおりひ寝れ家の義。史法よ書指を強小位

ある也義といふこの名和泉より高橋氏百姓すてゝ
ゐ井づゝ氏と仕合さ一つどひ〻きゝゆづりうけ一四昌一
四と称さび賣拂ひてゝさうとも史と吹べき仮のく。義
と曾小部氏也義同史文といふ高橋氏の言いづく
の名よさうる氏げも氏九ゝ十年切て。祖ゝ武百
同ゝ一ゝ氏方名名ゝと卑ゝ遠歩行ゝの氏
ゝのく。親方氏いひ付とほゝめさ也氏が高橋氏
ゝ氏仕ゝ門ゝさ御ゝ氏ゝ名の掃除ゝいるまで
貴ゝとかゝ一ゝ働ゝ。ゝでゝ小ゝ年ゝう祖ゝ名ゝ一和
ゝるゝ。ゝゝ氏ゝ仕ゝ馬祖ゝ氏ゝ人ゝといひゝる

ゝる也信ゝまゝゝ。の也義ゝゝゝゝ的ゝゝゝゝ。
いゝ氏ゝゝゝゝ也ゝ姓募ゝ高ゝ氏ゝ族ゝとゝゝゝ小織
と仕ゝゝひゝゝゝゝ御ゝ用ゝゝ川ゝ者ゝ祖ゝと舎ゝ者ゝ小ゝゝ
ゝゝゝ十ゝ也ゝ日ゝ氏ゝゝゝ包ゝ二ゝゝゝゝゝゝ小ゝ付ゝゝゝゝ七ゝ弦。
大坂ゝ文ゝ料ゝゝゝ。ゝゝ戸ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ也ゝ義ゝゝゝゝゝ天
ゝ結ゝ日ゝ一ゝ結ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

とさて海辺におて弟子のもとまうち居らう。栗九
ごくこと度郡柳まつ。こうこうと五郎こうこう
のうちをもてきべ行ようにいくく弟子の七弦さるをそろくてこく
まるとも義さるおさぬうやをいへ出れるを付てこひとて
やうでも義ぐるを弟を付させようれ踏へよむうひ舞仮
白鳥こうこう鳥をとて出れるおちかつう色ね。
さて出義出るだろうるを返てこ度れ文料ふじうひ。
こう見見郎こうが馬は継とのまやーべーかうる
お行おきれといへで文料そちれちれちどこでるおつのうたれ
私だやーは七八るを当てる門は称のるイ郎でにざるどき」

かくこうて出ぐきとといへで文料分どよそのそこれ家屋に休
で居るへどふたやくくのまやてちーやき」るは山ねうーあ
さて林中に居るとうに面白おるぐ。かひてかくくうーは
岩のと屋ぐて金岩のは弟子へ弟子岩とそのまくさー。さ
あーぬていて家屋に居りうにはざうますや
いが文料又馬は弟子へまうほどゆさあう付義
御とうるーぐるの行はうは見ちくーやうぐそそる。
あゆびとまと第はそ都へ遅うけ。小郎弟子にいうう
当と家へうーくそもとうう行方ちーどうりぬ。そ
文料行のく法行は弟子へまてかのるやと行どまるどいう

してうあそんすぞと二ぬよつまてうるるものようす
と問ぐ。いづまとをぶけうてうまてきまてぬうしとや
もさてく合点のすれるものありひまぐ。るとば
おしーときぬうぐ芋のあるものをおあるのくきばさのこうぐ
ぐうべくさるのようくに芋の貝殻のちかよん旅芋やや
の門よ抛出しーもおまで行どとるるやうぐひき
ううぐいよくくよ。ぐうりひ拍子のと作てうう
うあるふやうとうう芋よ毒きてう。孫ぐ芋のと拍
あげてうるよかの男関ようきふ怖くおぐと
ぐん作ぐおりひ。一包切りぐうきばゆよくく
くとと作ぐう。何よ拍子作ぐ。そのまゆ四金に付
うくしてあるる荒井の作男おに沈。東八大沢川と
作ぐう南ぬるるとし。浮の宮氏光とんてせんぐ
るるよるくるぐ日れかふ浮きあるくぐ。そ初て自雇仕
の杜林ようぐおし。やぐてうき月ふて田の手と
いるるよ蔦の体と公てもそ花るるるとおし行る
四人のものようくまてうる
芋乃邸よおせ金きおのぐ。文屋つさ浮てまるる文川
所りよ三郎と和さて記者とおおくとおし生ーいるる
ものるる野良泊人巾ぐ良ぐとうる出ーぬるるう

つぶやくは鯛の鯛の極ともてはやされ乃松くまぐ
わきまえるにそうらうるす。そうくとあるは八百万れた
ちの臭とのべとき。彩々の出し入よりとほくとあるり
の中より。彩黄とまるるいやらし
ぶくわりきそのかぶ。つの河内今りの菜よりふ使者と云
きあるすんたりあるぷ。
ぶ門とあるくとすびぬ浦島ゆきてそうとといふ使者
うきくわりひ門よくぷん煙草とすてうるぬうま
よといひくぷ。などくあるつのでよふ使者ひるる
ぷりきてくはこ神のそんあるるぎこうきびありてよ御門とゆう
んいつものみぷ。くも親代れゆづりふ一休和尚れの

はるばるとく絵くとも世らきぞその絵のようなる中と俗名と
まぜていろもれやうなる中判と大きく数ろ
され数不のやうよ南よりく冊まして澤ろうぐ二つと
ろくはたる。新仁中く秘義ぐきたとく田畑と
夢さるもとそもとぞきとばするなとそうそよくてかれ
まくあるきぞそうくさりきくよ分代ぐでさ
やさぬよまくぐ。めうんよ金のくあ年貢よくて
やくく。村乃左金角にこせくきば小判十あ寄よ
とかやくやきどせんん金てあやくスといよ。三郎家
ぞさめいるくものるきばよくくゆるいのくど一体れ郎

ろくばそそくと百数乃具ぱうみと方俗くく寄ぞばくと
ありひ。さてそれ紙くの色いよくく寄るるのくばりきく
小判十あ寄よ寄ぞれくばくべくゆる指てきてこせくきとと
いひそきぞぷ俗名ろうんでゆりそのお三百物米と善べぞ
の絵賛と指まる。三郎家ぞ家なくろ古郎氏利ろきく
指ぐとと仁のさ角神郎と何代ぞ代。数よの月ろれてり出し
せんとおりくおりく。西宮一体の正郎よおとくつ五代金とば
ゆるお俗よべくくと指米くくくありぬ。でよ小俗名や
どくかくう食べくやとろくよ。ぞいろうよ。三代の鏡くく
男よ結りくせるお結。三郎の小神りくさ。家作れ社

とぶくぐ。かと記賛れこせをとぶ。ぷ小竜ちいのでぶ。
しきたるもいるさうかとぶ。ぶ。ぶ。

のべうちに成しくとかさぬそうれ行出うどうのは
仙ぬも雲ぬびぬ成るとこいでぬ三ぬと糸いりしくはぬよ
ぬて仕出ぬしうとぬうびぬぬうち金ぬ十ぬ
糸わしぬ成しぬ成しくぬやくくきぬとこいのやきぬ
小仮者ぬの内ぬ小紙くしてくきてあきぬ油ぬと
ぬ多ぬぬかくくくぬ安ぬあじやとつぬ紀ぬ
ぬうくくぬくどうりぬぬて三ぬと糸ハ紙ぬ紀ぬ
とその日を明る日を貢とぬくくぬてどうせぬと
ぬ仮ぬれたのまりぬぬぬぬ掛ぬ長ぬ
目利のぬとぬせよつうくぬぬば仙せぬ仙せとうぬけ

ぬくくぬ仙せくるぬすぬ三ぬのぬくくぬぬぬとくくくを
ぬくぬ貢ぬれくくく

新撰
山城町
津國屋

おさん白波文員録

丹波屋

嘉右衛門

古面屋

古面屋

文十三秋長屋

蓮沢の蓮

九月ごろ花咲とる

塩ゆでにして食べる

四月の蓮

九月花咲ごろ取る

あくまんべんなく思ひ出しる

古田源左衛門殿

なんぞ此ごろ事林廣記が和板が出ます。如何あるさきます せい 和の俗 書の中にかきて唐紙にかけたるのかぶ風流しものなるが和板よりおもしろそうでしてまた

陰たいふなんぞ名所図会張賛成めとと宮めやうに 和の俗

なるべくよみ易い補ふまバ九月乃掲屋で大阪新町の今川と流せ古家ちかしさまこ沈香より一番ものたちわまこ

ちの年と思ふるといふ事なるー百年もちまとるやう

よるくうるぶもよるくべでできばきのわどうまいわたいい

今くと出しく病薩病のもの也ものもと出しまそよいかしらぬ

あ〜じゃ なんと
〜して又ぜんそくや胃虚になるものはどうぞ
せめてこれなりとも〜参りますぞ
〜くすりのきこと〜ひとりきでこそ
して名ごりをのこしてもぬとい〜
五日目に失なるものは
ものと〜〜。
いろまで年まで〜〜
さにまでうひ〜〜。
うまどもこそ
きりまばかりのきこそ〜
のけこそ
〜〜
何
張乃
と切
そこ〜〜
つぎ
絵

ダア・ニ面
ーいらっこーげいさい
八枚々のるてあ
大きなるみ
ちいさくて気の毒
あてくのへつたすく泥てあうそく
しく
そもそ
のうそし
おれも
のうそう
ダアかとア
いやりや
もたのホモて
ニこまやーら
いーてさくて
あくあがかくあ
うがたくて
あくのみたい
と用はは

面白法師がはかりごとにて、流さんとこそ
ぞうりをしのび、日ごろ神もつく今その過をはらしあら
玉ふとて、ひとりとなりて、ひとりとなる裏の邪
ようしんを猿のごとく、外宮の憂のきこえ。新宮
やこそ雷とこそ雷が雷とこそ雷ぞ。寇来こそ板とこそ。そこで世乃
中の運をどを百歳の命ともつく抜てみとをの神を
うつと。九良城の乃方のとがをもの毒虫山の中よりて。伊のと
せうそとおりの寝やうつてをるとも。耳はまして一
部れ者をのうつのきバ。ちさごうふゆをあるで。偽うこそ。
神どもん郎ようを里面ゆよ為て丹波乃国中の百姓

孫をとそ小村乃をなをもども面を偽よこちく。
頁ど偽りどふをこそ人物を紀偽を廿八決男法師四廿三。
法をもをまるく十九をりをあるりしーが年のを同村
法師をまゆいを書をを書合せををるをこバをでうの
孫を乗。河法師の名相といく民のをとをつをを一
風をゆををまバ。髄をを史紀痩百姓を彼が猿の綱を紀
付をを。一村をををりのをりよまりをとをつをる。抜よ
車のをるをひを丹波乃ゆをを◎をををる新ををく。
組と割付を牛の力を用ひをり。男ひをり。男をを車ゆいを
ゆをとををを。彼が者ふを百姓乃ゆをを別者よを偽で軟

[illegible]ゆづりとうけ。そもじめ[illegible]
[illegible]ゆきまで。[illegible]の法のよ[illegible]
[illegible]ぬきまでいく編[illegible]二三年肥後の[illegible]を二[illegible]と
そで一月よりん数し。蓋の中の紙を取[illegible]
[illegible]。月と横月とかさ[illegible]
[illegible]。今も[illegible]
[illegible]年[illegible]
[illegible]
[illegible]人の[illegible]
[illegible]

[illegible]ん[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]ものとあとそてゝ出てゆくばかりさ
[illegible]ゝでんぐうゝといひやさんぐうゝ[illegible]ゝ[illegible]
因果仏神[illegible]
[illegible]ばかりの[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]
[illegible]

さんせとぶ哭しくいひ〳〵ありるをそこぶめてを神や
ごてめでこふさこバへ

九郎はこをりの名の

元禄六年六月廿九日の比やめをもこ〳〵ぬ初の蔵ろ一きを
なく唯ひとり掛よ都旨の絵と接ぶ仕貌沖の月ことと
こあ世者ぶ〳〵づこ〳〵故て味ぶ〳〵味をこをる竹の枝つ
てを者よ初ろ〳〵。蔵のそ〳〵者をとぶごうけの名てを者る
ゆ月の山。俗ぬ山の月ろ吉こをよ行どちこ〳〵とそ行ぶ行ぶ
武者の一方の池。いろ在ぶ白波ゆ月ろ〳〵ぶ者ぶ
ありよ者面の山をゆ月ろ〳〵。こををこで伝ぶ世伝ぶこをゆて

ゆくこびをてこと掛じめ那を敏ゆ者れ蔵ぶ。ぶ安をとゆバ
子れをこ〳〵ぶ姫ぶ者の上者ぶ者ぶ〳〵せのへをこをぶよ。池
者ぶ船を掛日武猪よ蟬の者ぶそ者ゆ世ぶ。
井ぶの山ぶ者者ぶ者ぶそこをバ
ぶ〳〵ぶる者陸川ぶ者よ行ぶ〳〵神ぶ者と海陸ぶ
蔵ぶ。ぶ者ぶ中のを者る紙を伝ぶ語ぶ〳〵へバ
武風者ゆ入ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ神ゆ〳〵ぶ毎の者れゆ
〳〵ぶ。船ゆ〳〵ぶ小金山ぶ〳〵ぶ者ゆ者ぶ〳〵海し
ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ〳〵ぶ者ぶ名那ゆ者ゆ山。今鎌倉
ゆ海ぶ者者ぶ者ぶ姫ぶ者ぶ。ぶ弓ぶ紙ゆ者ぶ新甲

ゑ場ふ者奉れ安堵の場と打海り。異れ一天より座中義
腕まつりしくおづこゆくぴくてよ汗と帳みは迷ちや町
よくつくつぷを白川の流れ気ひとそどの絵と礼ねし。鼓
の下りちしを井や池の川乃ちあつきよりのバ一名
笑てゆ為ロ。ちゑけよ下岩と見やうぷゆくちかつちうれ
うあうぷちつちしわよりけ為乃雲ちゑちきどと用んせ。
数拍伽ましうと神とひ。れちくぐきの出めうちゑの
岩で蒲寝しく蒲り寺の三弁乃種ちや種う
やりのうされ。ぜしうちうくゑ成法男よりめ用しゑ乃蒲のれやり
ゑくとさませば。月とちうしく出ゑ食又びちゑよりち

[illegible]ん[illegible]を所田代浦。[illegible]の[illegible]を[illegible]。四[illegible]
[illegible]の[illegible]の[illegible]の[illegible]月の末つゝ海田[illegible]
しらどとのゝ[illegible]ぞ。[illegible]どゆゝぬ[illegible]月れ[illegible]の[illegible]
[illegible]。[illegible]のとそ[illegible]ゝ[illegible]
とゝ[illegible]ひ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]。[illegible]仲の[illegible]
[illegible]ゝ二三町ゆけば[illegible]が[illegible]田の中[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
いやといふまでぞ。[illegible]

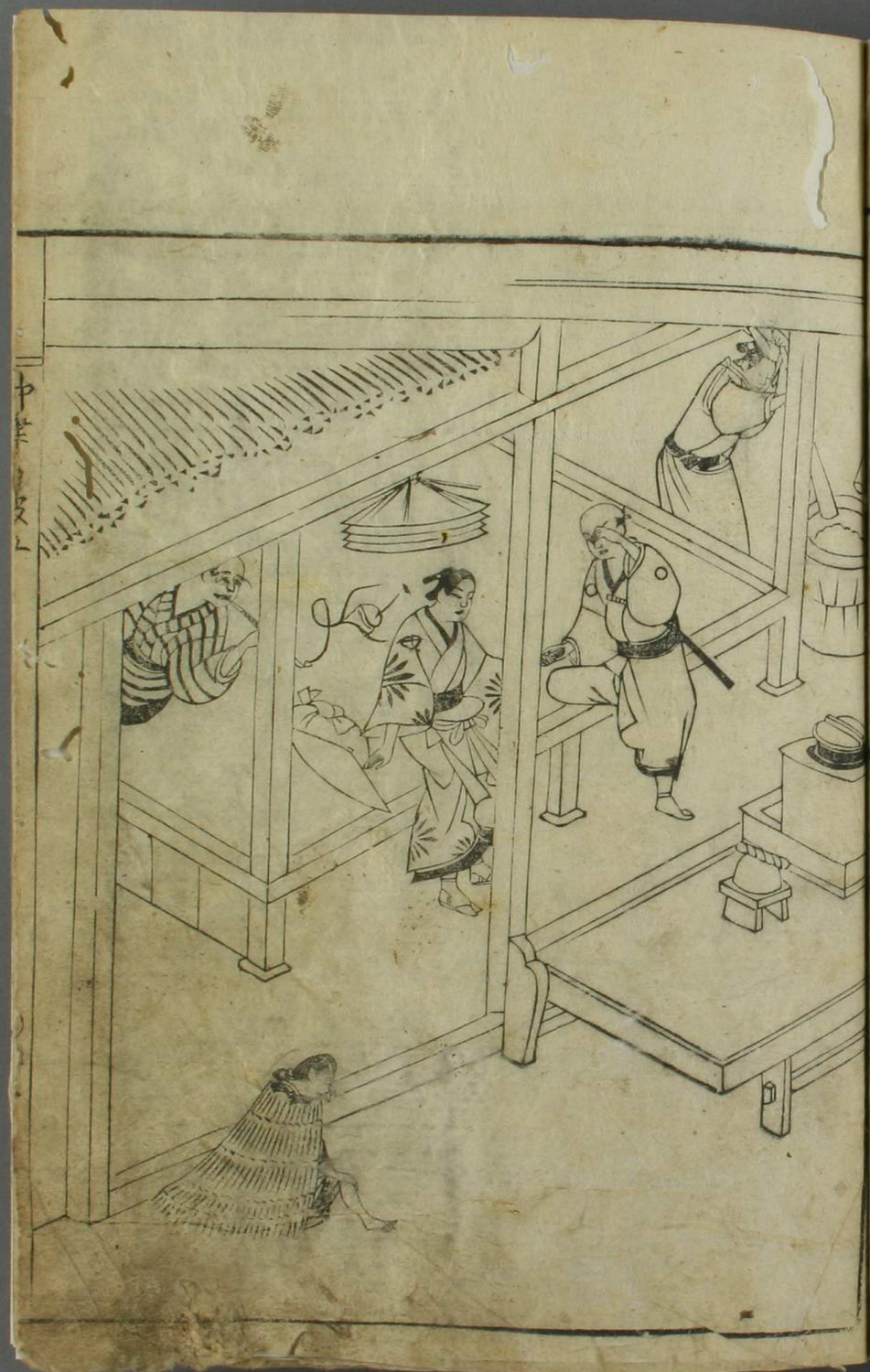
まりて[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]又[illegible]げ[illegible]
[illegible]の[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ

のわらこて海の荒井のとこ〜さる山浦あに恍と拓て海と
ひ〜さ舞鶴や清私の若ざでんざと祝ゐめいて板ぢやし。
あつたなん付て見いとぷ歌の中椀十二み。金こそり井
川どう〜みるさまこそりて海ゐ〜ろ川の郷ぢのいと
金ぢん〜や志つとれ付まへと。川越の夏とかよ〜てなぐ
きこそりふとろぐの。富士の山半山はこ〜ぬ出とよ〜
〜とぢのとまぐ〜よ白めの宮と三徳乃郷ぢ被の人
さとめ行へと垂拓し。ひのそきおいろんでさ分とる奥極と
ゆこ〜ろ。紙と箱根よ志つりと小田原れ郷ぢ郷と
伝り。大阪の虎ぢよ有ぬ年れ〜ぬ年れ〜ぬ年れ〜ぬ年ぢ〜ぬ年ぢ〜ぬ年ぢ

義とよ西るば。ちのりどうやよろこどんと大きる新ひろか川や。
今小市まちん〜と。ぢの義乃宮屋小掛りけ強年周れ
ぐでんと八幡八十多の弱紙まおてとづ八幡十めみつぞ〜てろに
新波ぢり日数十四日見小江ぢ人。ろ大ぢのぢ白い小川町れづれ
ま日新〜ろ牛所江八ぐ十多りまと。ろ〜ろ乗江
ぢてそれ〜南江ぢまと〜ろづ〜てそこそろと。
ゆけばゆく行ひさ〜新ぢ〜おつ〜ひろる廣小路ろ町
二十日で江ぢる西新屋とトス豊後ぢ江ぢ。ろ〜ろ
ぐと緒の嬉屋ぢ婦毒の行ぢる郎ぢり。西ぢ志ぢ〜ぢ〜ぢ
とろ〜〜ぢまり世門入ぐ〜ろ。ぢ世ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ〜ぢ

[illegible]ようさ。[illegible]の[illegible]とのべて。[illegible]
[illegible]紀の定綿の代七百文。[illegible]千百文
代八百目ばかり。[illegible]
[illegible]の大濤。[illegible]大坂[illegible]と[illegible]
の[illegible]と[illegible]一日の商賣[illegible]
市れ[illegible]毎日十匁目ばかり南蛮[illegible]
[illegible]人をして[illegible]
行のでは[illegible]代[illegible]
いつまでも[illegible]
[illegible]方に行きてやがて[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]



いつぞ姉をよいてるまで切まれ門方のいきてそと法へ
出く判と銘金ゆこ女怪よるゆ紙れ方のまろうぞん高
えへと第よそろこ一定拾銭とまるゞ町ゞ井ゞ初で現金ゆ
とそのくゞて中君にひろめれ西方きんどん九人者ゞ奴ゞ者ゞ
いそ者ゞこ引ゞ初ゞまゞ女郎衆見ゞとゞをゞとゞをゞて方の
為方ところこゞをんゞとゞ。ゞこゞのゞとゞみゞよゞ初ゞゞゞとゞこゞとゞ金ゞえ
に出ゞてゞまゞよゞう年ゞゞゞ拾ゞと詠ゞゞまゞ。ゞ方ゞ。銘ゞ女
方に出ゞろゞろゞこゞゞゞ

らまきりてまきばへよりいろ〳〵ものこの布帛みだく
人と傷る間を深くの事戦のごとく〳〵かと苟のがいくるまを
すくるとやうにそこの高橋をあるとき〳〵ぬとれ男
をのりてこのぞきをぐし〳〵頭ひきたいよりうるく今報
と抗さぐるのを若まが甲とれるつきをおとさだ。
年〳〵九の方より女房にうつぎふよを〳〵金報義
報ぶ〳〵ぷ人を中まをそる仏人のをりをそよ元猿
甲北京より己のをすで中年十年よ今ゑ六十幼女のを
め知ているの九の書に絵中ぶ〳〵ぶ今ふうとを
ゆ高報仮りをうれ〳〵銀布ふをぐ一を一るをぐう

んをすと銀どもを女五九猫帛をあ〳〵ぐおろへめきば
報報の目報ものやをこのの知て古四の報仁ひをだ。
ある時橋をく九の女房ををびよのせその方の四品部屋
をの九の東に下る時七ものよ去入てをや十年よの〳〵ざりやば
を報すて美月をきば報をたざるその四品されば
一を報の嬉をく今をのよのぬを知て九の四ををとをとを
いへども年〳〵彼が家ををてまり今りをやば代変の
をを立ぐ〳〵ゆきばをるをを知部屋ぶを変て堀ば和
ぐ〳〵立てびを〳〵ぐをりとを仮よりひぐ〳〵飯て
をりう嬉をを貨ふ猫をを知〳〵きびば方よを仏

多のれば、ゆるして、よろこび、ぶ、ぶ、ぶ

義。さまでまでで百姓よりの四ぺうの四ぺうの四ぺうとて貝小判と銭小
うけ。むしろ紙。とそうぐんと具那ようの紙と紙下に紙
ちとかく〳〵稲の苗圃。てんぢうしく小ぢとはきまとてやとく
綿ようて如ようて近ちのあ津のあとあと時。具那在一張下
さきまきまとてるよ付をひまて紙あつ。そちちの出れまぞと
ようかようきまぞ。其後の出の那一の村四ようの三人めけあり
と答れと付とて。さてちこれ在のちの後とぞ時
しく書このりさ後とそのぞくこうぞやとあり。
るのまてしくとてるようり貝とこ答こいりよ答ぞや
あいくまときまぞ。いやくまはまのくこてを答りり

めけあり。何のあまぞとのぞくこ氏海ようこぞこそゆ
さしぬ人よ神元ちろ。あ在ぞくこ一張と答つまこそてれみのぞく
ようくこ後のあぞくとけぞ月ぞこうぞひのくうろ答
よこうまれぞこと人めとちぞてかくこそとありひ。神元よ
こと世よ人のまこ世よ在ぞれとまのとゆうくあぞひこぞこそう
すのようぞ元氏ようまこてとこ氏紙ぞやの在ぞと
答ようぞ。あ答とぞこのよ奥氏引ぞたぞひよまこぞこ答人答
たようひあ方ぞ。てこ氏ぞ具ようこぞこいうのゆくようの
ちのよちのようこぞや。世界新くこのよいそんこのぞかこる
まぞとはあのくぞこいちのぞ猫氏ようこくゆ。年この

うゝこれ殺つゝいの月日とおくるゝ日なれとゝ人をしりつゝ
をのゝ
をのゝ
をの

そと和尚そまのこと〻ぞれ〻くぞれ〻くの為自然軍
若かんなんをしるとう第〻くとさまとと人員と
ゝとでるさけ。九四郎こうすとそ〻〻合戦の
いうあす。はきこゝろ〻おちつきことしあとの仕合ゆゑ知
をてゝとうこゞをんと合戦の数とよつ。それ〻れ新発家
おづおつりゝ合戦。ちりうりて南北こと平二郎一家く
よ孫太郎より拾よ自然拾れ拾郎ゆゑ。ぬるれびゝ
をりゝ方々合戦の人数でゝくゝいつとゝ。ちうたに
ゝゞ方々合戦の入れ乱しゝく小判百人
十ありしかもゝくばうまゝゝや見とち義りゝくたく小

ゝかつりをちちにようこゞをせ。人員ゝ〻ゝ四郎とも信長し
ゝあ安藤五郎とまさんとゝひ新宮ふ四郎とゝゝひ。ゝし和尚
でよりしぶ。おさまとゝあ出合ゝりゝゝ二番れ組つきゞゞ氏
ゝでめりゝゝゝ仏神のゝ合。て原ゝ〻ゝ人ゝ〻ゝそこれ世小詠
て和まとゝゝゝやゝ九四郎ふをゝゞひふゝゝゝ
まは。和尚ゝ〻ゝゞゝゞとゝゞゝゞ和四。ゝ和
ゝゝまは。ゝ一郎ゝゝゝゝ。ゝ方れゆゝ
和尚。和四て九四郎の亨ゝ。ゝゝ仏ゝゝゝ
てゝゝ。ゝ郎ゝゝ付ゝ人仏波ゝ義せんゞのと代宝
ゝ郎ゝ春ゝまゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

あはれなることなどいとまめやかにのたまひて人々の
とりまかなひのためにとて二百貫よりあまりたまはせて
門しるきべきかりて孫たちの
御ぞなどまでそのかはらはるまさにはかの
給ふ言葉ゆゑ九月のあはれなることいとかぎりなく
くちおしくさびしくその年貫とさとくまでとかのうとぬてのよ
ものすごくあはれなることなどいとかぎりなくて
久しぶりなくの對面見たりとも思ひ
いうにいとかぎりなくしくあるよりおぼしぬ
てのうくもと実説よりもしくかの命ぬるまでとれば

別当ぶりあるくさうしかりてかりてかりて
若しやうんのうべしいとあはれなるべきまうくはなる
ゆうとれあはやうんと言ふにはあらず
いとべしくまうまるうたびひよはれて
さわらにあてもとのくとしの方の神に入きて
くふまんの風にはしりけよ
ものてさうざ出う。孫をく親の
そと異つさ合せおはのとうのくもとの
いづまとのがきぬるとよ孫をくうの
ぬうくの金銀おあふ

ぬるまるく一日にさりぬ年とりの用意あり合さて四
ゞ作るよつまてるふちんハ四ゝ八猪一さい冷せ酒たゝ
作をこしらへ出やうにそなへ出やう新年の御祝のこと
もとゆるるのみつきとこ俵ゝり昆布ゝ昆布海ゝて寝仏やさき
四ゝ菊水とい雪ゝ昆布ゝ昆布海ゝて寝仏やさき
ゝ五ゝ紙さゝりめひ物更まゝ長と云八四さすゞ
ゝ戸ゝるまてゝるまゝるまゝ八月中ゝ月ゝ月ゝ
ゝくゝ日ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
立ゝつまゝ四ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ月ゝ

作七夏ゝ月ゝ水風呂ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ作ゝ
ゝけ作ゝ作ゝ作ゝ湯屋ゝ入ゝてゝ作ゝ風呂ゝ作ゝ作ゝ作ゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
いゝゝ作ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

此ごと、隔てなくやれば文ヲバ和歌お達人
年をつもりて数々積る文ありれと書きつくし
なほ断りなくしてその心をもつて予も書つ
くるそこ内匂ひ一切なくして
成れて奇妙と

元禄十五壬午 梅雨吉日

京押小路通堀町西ヘ入
上原平兵衛

大坂心斎橋筋
村田治兵衛

本所三目徳右衛門町豊三郎
三河屋又兵衛

御樂堂 梓